

# インフルエンザ予防接種を受けられる方へ

## ○予防接種の目的

予防接種の目的は主に重症化予防で、インフルエンザにかかりにくくなる、あるいはかかっても症状の重症化を抑えることができ、合併症や死亡などの危険性を抑えるものです。

特に、乳幼児や基礎疾患を有する方（気管支喘息等の呼吸器疾患、慢性心不全・先天性心疾患等の循環器疾患、糖尿病、腎不全、免疫不全症（免疫抑制剤による免疫低下も含む）のほか、65歳以上の方はインフルエンザが重症化しやすいので、かかりつけの医師とよく相談の上接種を受け、予防しておくほうが望ましいとされています。

## ○予防接種の効果と持続期間

- ・ 予防接種の効果が現れるまでには、2週間程度かかります。
- ・ 予防接種の効果が持続するのは、最長で5か月間とされています。

## ○ワクチンの副反応

- ・ 非常にまれですが、重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫など）、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、ギラン・バレー症候群などがあらわれることがあります。

※ 接種後に異常が認められた場合は、最寄りの医療機関でご相談ください。

- ・ 全身症状  
発疹、じんましん、頭痛、一過性の意識消失、めまい、嘔気（吐き気）、嘔吐、腹痛、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛、筋力低下、発熱、悪寒、倦怠感、リンパ節腫脹、咳嗽（せき）、動悸などがあらわれることがありますが、通常数日中に消失します。
- ・ 局所症状（接種部位）  
発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）、熱感、疼痛（痛み）、しびれ感、小水疱などがあらわれることがありますが、通常数日中に消失します。なお、蜂巣炎に至った症例の報告があります。
- ・ 神経系障害  
顔面神経麻痺などの麻痺、末梢性ニューロパチー、失神・血管迷走神経反応、しびれ感があらわれることがあります。

## ○次の方は、接種を受けないでください

- ① 明らかに発熱がある（37.5℃を超える）方
- ② 明らかに重篤な急性疾患にかかっている方
- ③ インフルエンザワクチンの接種を受けて、ショック、アナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④ その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方
- ⑤ 妊娠の可能性がある方

## ○次の方は、接種前に医師にご相談ください

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害などの基礎疾患がある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方および全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があらわれた方
- ③ 過去にひきつけ（けいれん）を起こしたことがある方
- ④ 過去に免疫不全と診断された方および近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑤ 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患がある方
- ⑥ 薬や食品（特に鶏卵・鶏肉・その他の鶏由来のもの）で、皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことのある方
- ⑦ 妊娠中の方（接種が可能か主治医にご確認ください）

## ○予防接種後の注意

- ① 接種後30分間は、急な副反応が起こることがあります。  
局所の異常反応や体調の変化がないか、様子を見てください。  
万一、接種した部位の異常反応や体調の変化、さらに高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合には、速やかに医師の診察を受けてください。  
  
※健康被害（入院が必要な程度の疾病や障害など）が生じた場合は、健康被害を受けた方または家族が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて、救済手続きを行うことになります。  
詳しくは、当協会または最寄りの医療機関にお問い合わせください。
- ② 接種部位を揉んだり、こすったりしないようにしましょう。  
あまり強く揉むと痛みが増したり、皮下出血を起こすことがあります。  
接種部位が気になるときには、揉まずに軽く押さえるか数回さする程度にしてください。
- ③ 当日の入浴は、接種後1時間（急な副反応が出る可能性がある）を経過し、熱などがなければ差し支えありません。
- ④ 接種当日は、過度の飲酒や激しい運動を避けてください。それ自体で、体調の変化をきたす恐れがあります。
- ⑤ 抜歯や手術などで緊急性のないものは、予防接種後1か月間は原則として避けてください。

接種後30分間は、急な副反応が起こることがあるため、  
体調の観察が必要です。

そのため、一人にならないようお願いいたします。

